

信者の内に働かれる聖霊 ①

1A もうひとりの助け主

1B 守り、慰める方

2B 内に住まわれる方

2A イエスの言葉

1B すべてのことを教えられる方

2B 思い起こさせてくださる方

本文

聖霊の学びのシリーズですが、私たちは今回から何回かに渡って、「信者の中で働かれる聖霊」について学んでいきたいと思います。

1A もうひとりの助け主

まず、イエス様が聖霊を遣わされるところを約束された箇所を、読みたいと思います。「14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」

私たちはもう一度、イエス様が約束された「もうひとりの助け主」について考えたいと思います。イエス様はこの言葉を、最後の晩餐に弟子たちとあずかっておられた後に話しておられました。この中で裏切る者がいると言われて、イスカリオテのユダが出ていった後に、「あなたがたは、わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」と命じられて、それからこう言われました。「わたしが行く所に、あなたは今はついてくることができません。(13:36)」それで弟子たちの心は騒ぎました。弟子たちは、イエス様がキリストであられ、今すぐにも神の国を立てられると信じていましたから、いなくなるという言葉は彼らによっては何を言われているのか分からないという衝撃でした。けれどもペテロが、「あなたのためにはいのちも捨てます。」と言ったのですが、鶏がなくなまでわたしを三度、わたしを知らないという。」と言われました。

そこでイエス様は、彼らの心に平安を与えるために、用意されている約束を与えられたのです。それは、イエス様が父なる神のところに行かれたら、そこに住まいを用意し、それから彼らのところに戻ってくるという約束です。イエス様が信じている者たちのために戻ってくる、携挙の約束です。けれども、それまでの間も「もうひとりの助け主」によって、あなたがたを慰めると約束されました。

1B 守り、慰める方

「もうひとりの助け主」の「もうひとり」は、同じ種類のもの、同じ質のものという意味です。異なる種類のものというギリシヤ語(ヘテロス)もありますが、ここでは同じ種類を意味するアロスが使われています。つまり、イエス様が地上で弟子たちと共におられたように、聖霊によってわたしはあなたがたと共にいると約束されました。そして前回学びましたように、聖霊は神であられます。父なる神も神、キリストも神、そして聖霊も神ですが、神は唯一です。

そして「助け主」は、「パレクレトス」です。「援助のためにそばに呼ばれた者」という意味です。イエス様にぴったりと付いていった弟子たちが、これから独りにさせられます。けれども、イエス様は「孤児にしない」と約束されました。イエス様が弟子たちを、そばにおられて困った時に助けられましたね。この前は、例えば税金を徴収に来た人に対して、イエス様がペテロに釣りをさせたことを見ました。それで漁をしたら、その魚が硬貨を加えていたところでした。その他に、パリサイ人たちのふっかけてくる議論に対して、イエス様が擁護されました。例えば、汚れた手で、洗わない手で弟子たちにご食べているのを見て、律法学者らが詰問をあげていました。それでイエス様は、彼らに「この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。(マルコ 7:6)」というイザヤ書を引用し、それから彼らの律法の解釈がいかに矛盾に満ちたものかを反論されました。それで律法学者らは黙りました。彼らは神学校の教授のような、専門家です。弟子たちは、ユダヤ教のしきたりについて無学の者たちです。問い詰められたらうろたえてしまいますが、イエス様が上手にお答えになるのです。

今は、そのイエス様がいなくなったら、元もこうありません。けれどもイエス様は、「援助のためにそばに呼ばれる者」を遣わすと言われて慰められるのです。今度は聖霊が、同じ働きをしてくださいます。今日は、ここの働きに注目していきたいと思います。

2B 内に住まわれる方

17 節を見てください。「その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」この方は真理の御霊です。真理、すなわち神の言葉について証しされる方です。そして、聖霊と私たちとの関係について大切なことが書かれています。「あなたがたとともに住み」ということと、「あなたがたのうちにおられるからです。」ということです。共におられる聖霊の働きは、まだイエス様を信じていない時から始まっているものです。後に、世における聖霊の働きについて学びます。その時に取り扱います。今日、そしてあと数回、内におられる聖霊の働きを見ていきます。聖霊は、私たちがイエスを自分の救い主として受け入れたその時から、内に住んでくださいます。

2A イエスの言葉

その方が、真理のことばを私たちに教えてくださるのです。

1B すべてのことを教えられる方

25-26 節を読みましょう。「25 このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」父なる神が、イエスの御名で遣わされる聖霊は、初めに「すべてのことを教え」と言われます。弟子たちは、今は、イエス様の言われていることが分からなくても、聖霊が与えられたらそれが分かるようになる、ということです。そして律法の専門家に対して、知恵をもって反駁されたイエス様のように、神の御言葉を解き明かすことができるようになります。

聖書を理解するために、私たちは何が必要でしょうか？どこかで「専門家に聞かないと分からない」というものがないでしょうか？聖書教育を受けた人がいて、その人が解き明かすから理解できるという考えがあると思います。ギリシヤ語やヘブル語に精通していて、その注解書に頼らなければ分からないのでは、と思われるかもしれません。確かに、聖書を学ぶためにじっくり腰を据えて、学んでいく学徒たちがいます。神学校や聖書学校と呼ばれる所では、そのようなことを行ないます。けれども、こんな逸話をチャック・スミス牧師が話していました。次のことはよく起こる話です。

彼は、ガラテヤ書を教えていました。聖書学校でギリシヤ語を学習しました。外国語は苦手ですが、聖書を教える時に調べるための知識はあったとのこと。それで、その意味を掘り下げて、ああだこうだ、頭の中で自問自答して、それでようやく「この意味だ！」と発見できたそうです。ところが、教会の中にすばらしい聖徒がいました。彼女は小学校しか出たことのない方でしたが、主を愛していました。彼女がチャックに、「先日ガラテヤ書を読んでいますと、こういう意味になりませんか？」と尋ねるのです！チャックは徹夜して苦痛を伴いながらギリシヤ語を習得したのに、子の女性はギリシヤ語なしに、その意味を知ったのです！聖霊の働きがあるのです、すべてのことを教えるという真理の御霊の働きがあります。

そこでヨハネ第一 2 章 27 節を開いてください。「あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、..その教えは真理であって偽りではありません。..また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」ここの「油」は聖霊のことです。聖霊の油注ぎが内にあるのだから、誰からも教える必要はないと言っています。これは、グノーシス主義という異端が教会に入ってきていて、彼らは自分たちの受けている知識によって初めて神についての悟りを得ることができると教えていました。それに対する反駁です。誰からも教えてもらう必要はないのです。

キリスト教の異端またカルトが、全てこのように言います。「聖書を本当に理解するためには、この本を読んだり、この人の教えを受けなければいけない。」こうやって、自分たちの教えているところに引きつけようとします。なぜか？彼らのような、おかしい、滅茶苦茶な教えは、彼らの本を読ま

なければ、そんな結論は出てこないからです。聖書を読んだだけでは、そのような結論は出てきません。チャックの言った言葉ですが、これは私自身も確信をもって言うことができます。「もし、あなたがただ聖書を読んでくださるなら、みなさんが信じるようになることについて、私は全く恐れを抱いていません。ただ聖書を読みなさい、というのになんら不安は感じません。」

その通りです、聖霊が神の御言葉を教えてくださいます。聖霊が自分の心に教えてください、教えてくださいるようにお願いするなら、すべての真理に私たちを導いてくださるのです。実際には、教会において、神は教師を立てておられます。「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、・・(エペソ 4:11-12)」それでたった今も、私がこのように教えていますが、聖霊がそれぞれの心に教えてくださいからこそ、真理を知ることができます。聖書を書かれたのは、神の御霊ご自身です。そして聖書を解き明かすのも、神の聖霊ご自身なのです。

聖書の靈感について、聖書が神の御霊によって書かれたことについて、私たちは新しい信者の学びで学びました。けれども、その例を見てみましょう。ダビデが晩年にこう語りました。「これはダビデの最後のことばである。エッサイの子ダビデの告げたことば。高くあげられた者、ヤコブの神に油そそがれた者の告げたことば。イスラエルの麗しい歌。「主の霊は、私を通して語り、そのことばは、私の舌の上にある。(2サムエル 23:1-2)」ダビデがはっきりと、自分のこれから語る言葉は、主の霊が自分の舌に置いているものだ、と言いました。イエス様も、ダビデは聖霊によって神の言葉を語ったことを教えておられます。「ダビデ自身、聖霊によって、こう言っています。『主は私の主に言われた。「わたしがあなたの敵をあなたの足の下に従わせるまでは、わたしの右の座に着いていなさい。』(マルコ 12:36)」使徒ペテロも、ダビデが聖霊に導かれて語ったことを確認しています。「兄弟たち。イエスを捕えた者どもの手引きをしたユダについて、聖霊がダビデの口を通して預言された聖書のことばは、成就しなければならなかったのです。(使徒 1:16)」聖書は神の靈感を受けた書物です。

しかし、聖霊は靈感を与えるだけでなく、私たちにその真理を悟らせる照明を与えてくださいます。(漢字は、部屋の照明と同じです)。すでに啓示された神の御言葉が明らかにしてくださいます。次に大切な御言葉はコリント第一 2 章 13-14 節です。「この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」御霊のことは、御霊によってわかまえます。

以前、NHK において聖書の講座ということで、ある聖書学者が出てきて解説していた番組がありますね。結構、クリスチャンの間で話題になりました。けれども問題がありました。それは本人が

イエス様を信じていないことです。聖書を調べて解説するのですが、「この箇所はこのように書いてあるけれども、それは当時のバビロニア文献があって、そこからの借用である。」とか、聖書本文に書かれてある通りに受け入れないのです。テモテ第二 3 章 16 節には、「聖書はすべて神の靈感によって書かれている」とあるのに、聖書は一部だけ靈感を受けているという「部分靈感説」というものがあります。しかし、そこにある問題は、自分の理解が最高権威になっていることです。これは神の靈感を受けているが、そこは人間が挿入したものであるということによって、神のことばかそうでないかを定める基準はどこにあるかと言いますと、自分自身になります。したがって、そこにある結末は混乱です。しかし聖書は全体で、神の靈感を受けており、誤りもない言葉であります。ですから、聖霊の助けなしに聖書を理解しようとすると、このようになります。生まれながらの知性では、御霊に属する事柄は受け入れられないのです。

2B 思い起こさせてくださる方

そしてイエス様が、約束された聖霊の働きは、「また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」とあります。真理の言葉を教えてくださる他に、聖霊は御言葉を思い起こさせてくださいます。私は、教会に通い始めて戸惑ったことがあります。聖書が確かに、神のことばとして敬われていたのですが、こんな分厚い書物をどうやって生活に適用するのだろうか？と思いました。ところが、聖書通読をしていく中で不思議なことが起こりました。そんなに暗誦したわけでもない、ただ少しだけ心に留まった言葉だったのに、ある時にそれが思い出されるのです。そのことによって、その場に適した神の勧めが与えられ、力を得るのです。そして、聖書の言葉を引用し始めると、連鎖するように次の言葉も出てくるようになります。このようにして、イエス様が肉体をもって私たちと共におられなくとも、私たちの内で聖霊が働かれて、同じことを行っておられるのです。

弟子たちは、イエス様が語られている時は何のことを話しているのか分からないことがしばしばありました。けれども、イエス様が復活されて聖霊が与えられてから、これは次のような意味だったのだと思い出して、理解するようになったのです。使徒の働きを見てください、ペテロがいかにたくさん御言葉を引用しているかが分かります。2 章で彼らが聖霊を受けた時に、立ち合わせたユダヤ人は、ぶどう酒に酔ったのだと言った者がいました。けれども、使徒たちは立ち上がり、ペテロが、これはヨエル書の預言の成就であると、長い箇所を引用しました。そして、詩篇 16 篇も引用して、イエスが死者の中からよみがえられたのは預言の成就であることを論証しました。

ステパノという弟子がいました。彼は教会で、人々に食事を与える給仕をする人に任じられました。けれども、彼がリベルテンというユダヤ教の一派の者たちと論じて、彼らをうろたえさせました。「しかし、彼が知恵と御霊によって語っていたので、それに対抗することができなかった。(使徒 6:10)」とあります。そして彼は捕えられ、ユダヤ人議会サンヘドリンで尋問を受けます。「この人は、この聖なる所と律法とに逆らうことばを語るのをやめません。」というのが、訴えでした。それで使徒 7 章でステパノは、創世記 12 章のアブラハムの歴史から、延々とソロモンの時代まで、つまり

神殿が建てられたところまで語るのです。

その中で、ヨセフの生涯でステパノは詳しく語りました。彼は兄弟たちにねたまれて、拒まれて、エジプトに奴隷として売られました。けれども神はヨセフを高く引き上げて、エジプトの総理大臣にまでなりました。そしてヨセフは、飢饉でエジプトに来た兄弟たちに、二回目に自分がヨセフであることを打ち明けました。次にモーセの話詳しく話しました。モーセは40歳の時に、エジプト人がイスラエル人を虐待しているのを助け、そのエジプト人を殺しました。ところがイスラエル人は彼が自分たちを救うことを理解しなかったとあります。そしてモーセは80歳の時にエジプトに戻って、彼らの指導者になりましたが、イスラエル人は一回目の時に拒んでいたのです。

そして、イスラエル人がモーセに率いられて荒野を歩んでいる時に、金の子牛を拝んで、乱れました。そして、ずっと後にダビデが王として立てられ、ソロモンが神殿を建てました。けれども、神殿の中に神が住んでいるわけではありません。天の天も神をお入れすることはできないとソロモンは言いました。

そこでステパノは、ユダヤ人を糾弾します。私たちの先祖は、と言って彼らは先祖を誇りにしていますが、その先祖が預言者たちを拒んだのだ、ヨセフを兄たちが拒み、モーセをイスラエル人が一回目には拒んだ。そして今、あなたがたは預言者の宣べ伝えた義なる方ご自身を拒み、殺したのだと言いました。それから神殿については、神殿そのものを拝んでいるという罪を犯していることも、金の子牛の偶像礼拝と重ね合わせて糾弾しています。それでユダヤ人の心にのこざりが入り、ステパノを石打ちで殺したのです。それをサウロという男が見ていました。彼は憎悪に燃えて、キリスト者を片っ端から捕え、殺していきました。ユダヤ教過激派であります。ところが、復活したイエス様が彼に直接あい、彼は回心します。ステパノは聖霊に満たされ、それで語った神の御言葉によって、宣教者の第一人者であるパウロが悔い改めたのです。

イエス様は、具体的に迫害される時に、捕えられて議会で連れて行かれる時に思い煩ってはいけなと言われました。「また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。(ルカ 12:11-12)」聖霊が教えてくださるから、心配することはないということです。

使徒ペテロも同じでした、サンヘドリンに連れてこられて、「何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか。」と尋問しましたが、彼は聖霊に満たされて、こう発言します。「皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエスキリストの御名によるのです。『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの

御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」(使徒 4:10-12)」そして、議員たちは、ペテロとヨハネについて「ふたりが無学な、普通の人であることを知って驚いた」とあります。聖霊による力と、単なる学識との違いです。

イエス様は、聖霊についてヨハネ 16 章 13 節でも同じように、こう約束されました。「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。(ヨハネ 16:13)」聖霊が全ての真理に導いてくださるという約束です。このヨハネの福音書には、後で思い出したという記述があります。イエス様が、神殿でユダヤ人指導者に対して、「この神殿を壊してみなさい、三日で建て直す。」と言われた時に、イエス様がよみがえられてから、それがご自身の体のこと、復活のことを話していることを思い出しました(2:22)。ヨハネ 12 章 16 節には、イエス様がエルサレムにろばの子にのって入城された時に、ゼカリヤの預言の成就であることを、後で思い出したことが書かれています。聖霊が思い起こさせ、神のご計画の全貌を教えてくださいます。

イエス様が天に昇られてからも、もうひとりの助け主はこのようにして、御言葉で私たちを守ってくださいます。御霊によって、悟りを与えてくださいます。そして、聖霊が私たちに教えてください、また思い起こさせてくださいます。